

令和元年度 文京区立金富小学校 授業改善推進プラン

第5学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の達成率は、72%であった。聞くことについては、大体的内容は聞いて理解できているが、細かいところに注意して聞いたり、目的に応じてメモを取って聞いたり話したりすることに課題がある。 【話すこと・聞くこと】 ・ 1学期の達成率は、83%であった。全体の要旨を捉えることはよくできている。それに基づいて自分の意見をまとめたり、それを自分の言葉で人に伝えたりすることが難しい児童がいる。 【読むこと】 ・ 1学期の達成率は、83%であった。漢字の定着については、概ねよくできている。漢字や言葉の意味を考えて使い分けていくことや、文と文の接続や言葉同士の修飾関係の理解については課題がある。 【言語事項】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段から、話し手の目的を意識し、必要なメモを取りながら話を聞く習慣を付けさせる。話す学習の際には、ワークシート等を効果的に使い、話の構成を考え、整理して話す力を育てる。 ・ 読み取りの際に、登場人物の心情や場面の描写、表現の工夫など、観点を明確にしながら進めていく。読み取りを基に自分の考えをまとめる際にも、観点を明確にし、まとめ方の型などを提示して、徐々に慣れていくようにする。 ・ 新出漢字の学習では、意味や熟語の使い方などを確認しながら定着できるようにする。文の構成の理解を進めるために、線を引いたり矢印を書き込んだりしながら習熟を図っていく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の達成率は、90%であった。国土の様子やそれぞれの地域の生活の特色などはよく捉えられているが、それについて適切な言葉を用いて表現することに課題がある。 【思考・判断・表現】 ・ 1学期の達成率は、97%と高かった。一つ一つの資料の読み取りは、正確にできるようになってきた。資料同士を関連付けて考えたり、資料を活用して調べてまとめたりする力を付けていく必要がある。 【技能】 ・ 1学期の達成率は、92%であった。全体的に意欲が高く、内容もよく理解しているが、社会科の用語と結び付いていない児童がいる。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識・理解の力とも関わるが、内容と意味理解の定着を図り、調べて分かったことや考えたことについて、社会科の用語（その学習のキーワードとなる用語）を用いて説明したり文章にまとめたりする活動を多く取り入れていく。 ・ 複数の資料を用いて、そこから読み取れる内容を話し合う活動を多く取り入れ、多角的な見方を養う。また、調べ学習を進める際に、課題を解決するために必要な資料を効果的に活用してまとめられるよう、写真やグラフなど、それぞれの資料の特徴や資料から読み取れることを確認しながら、選び活用できるようにしていく。 ・ 資料等の読み取りから学んだ内容と用語が結び付くように板書をしたり、ノートにも資料を貼って書き込みをさせたりしてまとめ方を工夫する。思考・判断・表現の力とも関連させ、キーワードとなる言葉を振り返りながら学習のまとめを行うことで定着を図る。

<p style="text-align: center;">算 数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の達成率は78%であった。計算方法や図形等の知識はあっても、それを用いて筋道立てて説明することに課題がある。直方体と立方体の体積では、複合図形を等積変形する問題に課題が見られる。 【数学的な考え方】 ・ 1学期の達成率は92%であった。小数のかけ算やわり算において、位取りについて課題がある。また、当該学年の前学年までの内容について習熟が必要な児童が数人いる。 【技能】 ・ 1学期の達成率は90%であった。体積の学習において、特に何cm³=何m³や単位の変換に課題がある。また、体積の量感について、定着していない児童が多い。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考えを説明する際に、算数的用語を用いることを意識させる。友達の考えた図から式を組み立てたり、式から図を描いたりする活動を多く取り入れ、図と式を関連付ける力を育てる。 ・ 習熟度に合わせて問題設定を工夫したり、適用問題に取り組む時間を確保したりして定着を図る。位取りについては、図と式を関連付けたり、筆算の中の数字の意味を考えたりする活動を通して理解できるようにする。 ・ ただ知識を身に付けさせるだけでなく、思考力と関連させて、計算の意味や思考過程を振り返りながら定着を図る。単位についてレベルアップタイム等で繰り返す時間を設定し、単位の変換や体積の量感について定着を図る。
<p style="text-align: center;">理 科</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期の達成率は、78%であった。既習や生活経験を基に問題に対する予想を立て、実験方法を整理して考えることは概ねできていたが、実験結果や観察したことを正確に捉え、自分の言葉で結論をまとめていくことに課題がある。 【思考・表現】 ・ 1学期の達成率は、89%であった。実験や観察に意欲的に取り組んでいる。実験用具を正しく扱ったり、条件を制御し、自分自身で実験方法を立案したりする力をさらに身に付ける必要がある。 【技能】 ・ 1学期の達成率は、72%であった。実験や観察から学んだ内容と科学的な用語等がしっかりと結び付いていない児童が、全体的に多い。 【知識・理解】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実験や観察を通して分かったことをまとめていく際に、キーワードが見えやすくなるように板書する。まとめ方についても、実験方法を考える際に、表やグラフ、図をかくなど、どの方法であれば結果がより分かりやすく表現できるかを確認しながら進めるようにする。 ・ 実験は小グループで行い、どの児童も同様の経験ができるように配慮する。教師が事前に実験を行い、実験の要点や安全面を確認し、器具等の用意を万全に行うことは継続する。実験方法の立案の際には、表にしながら条件を整理できるように、全体で確認する場も設けながら進める。 ・ 思考・表現の力とも関連させ、板書を工夫しながら、科学的用語を意識的に使って学習のまとめを行うようにする。また、ICT教材を効果的に用いて、イメージと結び付けて理解できるようにする。
<p style="text-align: center;">体 育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の課題を考え、それに対してどのような工夫をすればよいか、めあてをもてる児童が多い。グループで活動する際に、その姿が生かされないときがある。 【思考・判断】 ・ 動きのポイントや運動の特性の理解が不十分な児童が見られ、個人差がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習カードを効果的に用いて、めあてに対するの取組内容を整理してから活動にうつれるようにする。グループでの活動でも、学習カードを基に作戦を立てたり役割を明確にしたりする時間を確保し、グループでの力を高められるようにする。 ・ 個々の能力に応じたスモールステップの場を設定したり、準備運動から主運動につながるよう、展開を工夫したりする。また、ICT機器を活用し、動きのポイントを確認することで、技能の向上に努める。
<p style="text-align: center;">家 庭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて学習する家庭科に興味・関心がとても高い。学習した内容を家庭で実践したり、発展させて新しい内容に挑戦したりする児童もいる。 【関心・意欲・態度】 ・ 生活経験等の差から、技能面で個人差が大きい。基本的な事項や技能を丁寧に指導していく中で、個に応じて対応していく必要がある。 【技能】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲を持続させられるよう、個に応じた課題を提示したり、教材やめあてを工夫したりしながら学習を進める。 ・ 調理実習では、一人一人に役割を明確にもたせ、基本的な技能が身に付けさせる。ICT教材を効果的に用いて、ポイントを丁寧に押さえていく。

